

「グループ」と「チーム」の違い

去る8月7日、オンラインイベント「自治体カイゼンステップアップセミナー」を開催した。参加いただいた読者には、この場を借

岡山福津市（前号掲載）と三重県南伊勢町（次号掲載予定）の二つの自治体で実施した「チーム経営研究会」の事例発表を通じて、行政経営における「チーム」の役割や可能性について考えた。



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第42回

変革のカギは「チーム」づくりにある！

分類した人の集団であるのに対し、「チーム」とは、共通の目的や目標を共有して動く集団である。

誰もが頭では理解しているが、私は今、「意識しているかどうかで、仕事の成果は大きく変わってくる」ということを実感している。

チームワークの良さ

私は、南伊勢町の研究会に伴走してきた。詳細は次号まで伏せておくが、「若者移住・定住」を実現するための革新的な施策を生み出す政策開発事務局を命じられた係長級6人が、約半年間の試行錯誤の果てに、「タテ割り」を超えた政策やプロジェクトチームを生み出す組織づくりに向けた研究成果を取りまとめた。

顔合わせとなった第1回、私は彼らの仲の良さに驚いた。しかし同時に、メンバー間の「めざすべき成果」のギャップも見えた。

ここから、6人のグループがチームになるプロセスが始まるのだが、この作業はかなりの時間を費やし、結果、当初我々が予定していたプログラムからは大幅に遅れることとなった。仲良く集団が良

「ビジョン」を具体化せよ！

彼らは最初、総合計画に掲げる戦略目標を達成するためのシナリオを描き、メンバー間で共有することが出来なかった。そこで、まずは「他自治体より優れている魅力」を考えてみることにした。とは言え、自身の自治体の魅力を相対的に評価することは難しい。

気付けば、研究会を開始する前には想像もつかない程、スケール感が増し、一方で、徐々に仲の良さからくる同調性や一体感は無くなり、その代わりにアウトプットに多様性が生まれていった。

そして、3か月以上経過した時、ブレイクスルーが起きる。まちのビジョンを具体化するためのブランドコンセプトが誕生したのだ。

この瞬間から、彼らは共通目標を持った「チーム」へと変貌した。最終的に彼らの研究成果が、現行組織がさらに発展していくための変革プランにまで昇華されたことには、驚きと感動を禁じ得ない。

変革は「チーム」から起きる。それを間近で体験出来たことは、私の大きな財産になった。では皆様、次号をお楽しみに！

りて御礼申し上げます（「自治体改善の輪」ホームページ及びFacebookページに、当日のレポートを掲載しているので、こちらも是非ご覧いただきたい）。

このセミナーでは、昨年度、福

とところで、みなさんは「グループ」と「チーム」それぞれを明確に区別できるだろうか？何故、「ワングループ」ではなく「ワンチーム」なのだろうか？

「グループ」とは、共通の性質で